

1. 本園の教育目標

一人ひとりの今がかがやく保育

- ・みほとけさまを拝む子ども
- ・ありがとうと言える子ども
- ・お話を聞ける子ども
- ・仲良くできる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・子どもの心情に寄り添い、主体的な学びにつなぐ保育を目指す。

{重点課題}

- ・子どもの主体性（やってみたい）を引き出す環境設定を（物的環境・人的環境・時間的環境）
- ・異年齢保育活動の充実→年間・学年を見越して、中身のあるものにするために検討を要する。
- ・食育→畑で育てた野菜、自分達で収穫した旬の野菜などを食す。

3. 評価項目の達成及び、取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の計画性	B	園の教育理念や方針を理解し、指導計画や保育にいかそうとしている。必要に応じて見直しをし自由に変更できるような順応性のあるものにしていく。またもっと主体的に取り組める素材や環境を構成していきたい。
2	保育の在り方・幼児への対応	B	どの子どもの気持ちにも寄り添い、共感し、適切な援助をし、また幼児の個性や特徴に応じた関わりをしている。職員会議などですべての幼児の共通理解を心がけ、色々な角度から子どもを見とるようにしている。
3	保育者としての資質や能力・良識・適正	B	保育者として専門知識や技能を身に付けようと研修をしている。会議の時に自分の意見を述べられるようにしていきたい。普段から色々な事にアンテナを張って情報をとらえようとしている。
4	保護者への対応	A	保護者の方の話をよく聞くようにして信頼関係を築き、いつでも個別懇談が行えるようにしている。
5	地域の自然や社会との関わり	B	今年度は地域との関わりは難しかったが、子育て支援などは行えた。
6	研修と研究	B	園内・園外の研修で子どもの見とりやその内面理解を行っている。また園庭や畑・公園など利用し保育に生かしている。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	こども理解には充分時間を取り、努められたように思う。しかし遊びの環境の面でマンネリ化した所が見られたり、主体的に遊べる遊具が充分ではなかった様に思われる。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境の構成	遊びが充実するように年齢や預かり保育の時間帯など環境に合わせて、子どもの発想を柔軟に取り入れて構成に取り組む。
2	異年齢保育	決まった交流日だけでなく、日頃から関わりあえる環境にしていく。
3	幼小接続	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識し、一人一人の成長に合わせて環境を整えていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

昨年同様、コロナ禍の中、感染者数の増減を考えたから、子供達によりとてなから、様々な行事をして下さって感謝しています。行事毎に役員と一緒に反省点なども検討していただきありがとうございました。大変な状況の中にも、最善の保育をして下さったと思います。総合的にみても成果があったと思います。

父母の会 会長